

じゅう にん と いろ

十人十色

感染症対策委員会

今年は暖冬ようですがだんだん寒くなってまいりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。本年度より感染症対策委員会のリーダーを務めさせて頂いております平井と申します。今回は、当委員会がどういうものか、またどの様な活動をしているのかを簡単にご紹介したいと思います。

近年テレビや新聞によって、ノロウィルスやインフルエンザ、食中毒等の集団感染がしばしば取り上げられています。特に抵抗力が弱く、障害や疾病を持つ高齢者の場合、健康な人には影響のない細菌やウィルスに感染することも多く、正しい知識を元にした適切な対応が要求されます。当施設におきましては、この様な問題に対処する為、感染症対策委員会が設置されており、利用者様の感染予防に努めております。具体的には3ヶ月に一度委員会を開き、各部署の状況報告やいろいろなケースを想定しての対策や勉強会を開催し、感染症に対する知識を得て適切な対応が出来る事を目指しております。

- <平成27年度の取り組み>
- ・6月18日第一回会議
 - 各部署の4月～5月の状況報告
 - 感染症予防及び発生時のチェックリスト作成
 - 食中毒に関しての勉強会（田中栄養士）
 - ・9月28日第二回会議
 - 上半期（4～9月）の各部署の状況報告
 - 冬季の感染症予防対策について
 - 結核予防週間中、その再認識の為の勉強会（平井看護師）

<各部署の感染予防に対する取り組み～デイサービス～>

冬季の感染症（ノロウィルス、インフルエンザ等）予防の為10月末、新人職員を中心に勉強会を開きました。実際に職員が感染された利用者様であると想定し、シミュレーション形式で訓練を行っています。

また11月からは、利用者様来所時に、手指のアルコール消毒とうがいをして頂き、感染予防に努めております。

持ち込まない

予防接種

シミュレーション訓練

手指消毒

うがい

やっつける

- ◆ 法人理念
- ◆ 基本方針
 - 共同 私達は、利用者様がおだやかで、心豊かな毎日が送れるよう、利用者様と共同して生活を築きます。
 - 尊重 私達は、利用者様の個別性、主体性を尊重した支援をします。
 - 向上 私達は、専門性、資質の向上のため、常に自己研鑽に努め、信頼される職員になります。
 - 公正 私達は、公平、公正な事業運営をします。
 - 交流 私達は、地域に根ざした事業所となるよう、地域の方々とふれあいの機会を持ちます。

まほろば季刊誌 秋冬号Ⅱ

◇平成28年1月（まほろば広報委員会）

◇社会福祉法人 大原野福祉会

まほろば高齢者総合福祉施設

◇住所：京都市西京区大原野上羽町 39-1

◇電話：075-332-4165

◇FAX：075-333-7227



外部研修会

2階フロアリーダーの沼田雅毅です。11月9日4回目の全国老人福祉施設協議会神戸市老人福祉施設連盟の主催する介護力向上講習会に参加してきました。この講習会は「水分、食事、排泄、運動」の4つの基本ケアを行うことにより、ご利用者の自立性を回復するということが大きなテーマとなっています。今回はその4つの基本ケアのうち「水分」について、学んできたことのほんの一部をご紹介させていただきます。

ご利用者の自立性回復の第一歩となるのは、「制限のある方以外全てのご利用者に水分を1日1,500ml摂取していただく」ことです。人は体内の水を1～2%失うと意識障害を起し、2～3%で発熱・循環機能に影響を与え、5%で運動機能の低下、7%で幻覚の出現、10%で死亡すると言われています。また、1日の内に尿、便、汗、呼吸などで2,400～2,800mlの水を体外に出すと言われており、出ていった分は当然補わなければならない、普段の食事から700～1,000mlの水を摂取し、細胞の活動によって体内で作られる水が200～300mlあり合計900～1,300mlとなり、残りの不足分1,500mlを飲水で摂取する必要があり、根拠はここからきています。このように日々の業務をこなしながらでは、考えもしない「なぜ」について、詳しく知ることができ、水分摂取の重要性がこれまで以上に際立って印象に残りました。これから続く残り3つの基本ケアについても、根拠や理由をよく考え日々の業務に生かしたいと思います。また、本研修の意義を施設スタッフ全員が享受できるよう努めていきたいと思っています。

救命救急講習会

11月11日デイサービスセンターのホールで、施設の職員向けに救命救急講習会を開催しました。心臓マッサージ（胸骨圧迫）、人工呼吸、AEDの使い方、またお年寄りに多い喉詰まりの際の対処法などについて約3時間にわたって、西京消防署救急隊の永井、大西両隊員が熱心に指導して下さいました。

京都市内には救急車が30台しかなく西京区も、樫原の本署と洛西ニュータウンにある支署の2台があるだけだそうです。京都市内の平成26年度の救急車総出動件数は80,000件を超えており、また毎年前年比1,000件程度ずつ増加する傾向にあるそうです。救急車の出動件数を減らす上でも、救急隊が到着するまでの初動の面でも重要になってくる救命救急の知識や技能を実技も交えて教えていただきました。



ご面会について

今年もノロウィルスやインフルエンザなど感染性の病気が流行する兆しがみられます。ご面会の折には、受付に設置しております手指消毒機で手指の消毒を必ずしていただくとともに、利用者様への感染を防止するため、感冒性の病気にかかっておられる方は、マスクを着用していただくか、ご面会をお控えくださいますようお願いいたします。

また、利用者様に感染性疾患の症状がみられる時には、ご面会を制限させていただく場合がございます。あらかじめご了承くださいますようお願いいたします。

施設長 能瀬 英和

鮭、みかん

12月7日京都市中央卸売市場にて京都水産協会様及び京都青果協会様からお正月を迎えるに当たり市内社会福祉施設で生活されているお年寄りや子ども達に対し鮭とみかんの寄付があり、当施設も受納させていただきました。今年で43回目となるそうです。1回目の当時は、昭和40年代の後半で、世の中の情勢や食糧事情が現在とは大きく異なっており、貴重なたんぱく質とビタミンの補給ができたので、今とは比較にならないほどありがたかった。と何年か前の施設代表の方が受納式で感謝の言葉を述べておられました。厳しい経済情勢の中、毎年このように奇特定の寄付を続けて頂いている関係者の方々には、ただただ頭が下がる思いです。



ボランティア募集中

『まほろば』では、ボランティアを随時募集しております。特別な技術は必要ありません。得意分野や興味のある活動を選んで参加してみませんか？

- 利用者の方のお話相手
- お散歩
- 洗濯物たたみ
- 手芸指導（簡単なお針や作品作りなど）
- 習字指導
- 入浴後のドライヤーかけ
- シーツ交換
- 喫茶 ほか

☆ボランティアありがとうございます☆

上里チャペル様、大昭会様、ホイホイ・ホアロハ様、スィマルク様、羽竹 勝則様、岩崎 孝幸様、アンビシャス様、アンビシャス様、プラス・アンサンブル・サタデー様、

綿製品の布

■余っていませんか？綿製品の布■

いらなくなったＴシャツ・タオル・シーツなど、綿製品の布が余ってあれば、ぜひ譲ってください。

11月16日に出張売店を行いました♪



☆楽しい秋のイベントデー☆ ワンちゃん大集合！



可愛いワンちゃんと一緒に遊びましょう！！
11/1(日)にNPO法人「アンビシャス」様より
9頭のセラピー犬が遊びに来てくれました。人
が犬と遊んだり、一緒に過ごしたりする事は
癒しや安心感・意欲の向上に効果があると言
われています。利用者様に短い時間ではあり
ましたが、セラピー犬と触れ合って頂きまし
た。
皆様、大変貴重なひと時を過ごされた事と思
います。

おこんにちワン！！



いいもの あるかなー？

「いいもの」をじっくり見てお買い物しまし
よう！！

11/3(火)にまほろばバザーを開催致しました。日用
雑貨から衣類・お菓子など様々な商品が並ぶ中、
それぞれの「いいもの」を見つけて、お買物を
して頂きました。買って頂いた商品がその方の生
活にお役に立ち満足して頂けていたのなら、嬉し
く思います。



注目！！手洗い・うがいは大事ですよ

随分、寒くなってきましたね。皆さん「咳」など風邪の症状が出てはいませんか？
そこで「手洗い」「うがい」をしっかり身につけましょう！「手洗い」「うがい」は、風邪やインフルエンザの他に
も様々な感染症を予防するのにとても効果的です。私達は毎日想像以上に沢山の細菌や微生物に汚染されています。
外から帰ったら「手洗い」「うがい」を健康維持のため身につけましょう！！
「手洗い」をする時には、時計や指輪などのアクセサリを手洗い前に必ず外しましょう。石鹸でしっかり洗う事
が重要です。手のひら、手の甲、爪先、手首、指と指の間をしっかりと洗い、流水でしっかり洗い流して下さい。「う
がい」は3回に分けて行います。1回目は口の中の汚れを取る目的で、口に水を含んで強めにグチュグチュとうが
いをします。2・3回目は喉の奥に届くようにガラガラとうがいをしましょう。

あとは栄養と睡眠をしっかりと取り健康な毎日を過ごすように心がけましょう！！

特養看護主任 八木 千賀子

街で見かけた 気になる乗り物

皆様、原付3輪(50cc)のバイクがあるのはご存知ですか？街中でもピザ配達やヤクルトレディが運転しているの
でよく見かけますね。介護の分野では高齢者配食サービスで使われていたりします。これが原付3輪です。さて
原付3輪の中でも間違われやすい乗り物が「ミニカー」です。運転するにはミニカー登録が必要で原付免許のみ
では運転が出来ず、普通自動車免許が必要です。交通規制も自動車として扱われます。ミニカーはヘルメット着
用不要で安定性も良く、屋根が付いているので雨の日も安心です。
買い物などの近場の外出に活躍しそうな乗り物ですね。現在は若い人が中心に乗られる事が多いですが、
近い将来、開発が更に進んで高齢の方にも安心して乗れるミニカーが登場する事を期待しています。
例えば、自宅の椅子から移乗する時の補助機能がついてるとか。誰か作ってください！
今回は、私達が訪問中に街で見かけた気になる乗り物をこの場をお借りして
紹介いたしました。

まほろば

居宅介護支援事業所

山本 純子
河野 真知子
小泉 裕

この乗り物は介護保険でレ
ンタル出来る「4輪自動車」
です。無免許でも安心して走
行できるバッテリー式自動
車です。



「施設ケアマネジャー として」



施設ケアマネ
ジャー
齋藤 和巳

有森裕子がアトランタオリンピックで銅メダルを獲得し「はじめて自分で自分を褒めたい」との名言を残
した年、介護福祉という世界に飛び込み20年目に突入しました。人生の先輩達の生きざまに寄り添わせて
もらい、腹回り同様、大きく成長させてもらったと感じています。特に在宅ケアマネジャーとして駆け回っ
ていた10年間に担当させていただいた利用者を通じ、教科書でしか見たことのないような我が国の複雑な
制度の実際が目の前で次々と展開されていきました。

「部屋は足の踏み場もないほどゴミが散乱し、家族や親族とも音信不通、3日に1回は自身で救急車を要請」
「絶対に風呂には入らないし、病院へも行かない」
「娘の金銭的問題で、利用中の介護サービス費用が支払えなくなった」
「息子から暴力を受けている」

などなど、地域包括支援センターから「齋藤いる？」の相談の電話には、しばしば「ドキッ」としたものでしたが、
本人や家族と面接を繰り返し、関係職種と協働で制度につなげ支援の枠組みを構築することには大変やりがいを感じ
たものでした。当然、担当ケアマネジャーとして、「・・・のような状態であることから、早急に施設入所が望ましい」
と施設入所申込書に意見を記入していたのでありますが、現在は支援の場を施設に移し、「居宅において日常生活を
営むことができるかどうかについて定期的に検討しながら、自律を念頭に看取りまでを要介護3以上の方を対象に」
という役人が後付けで通知してくる難題と向き合いながら日々の支援を行っているところです。

最後に、国は財源が無いにも関わらず、持続可能な制度設計の為に報酬カットばかりを繰り返し、保険者はマニ
ュアル通りに指導します。地域包括ケアシステム（当初、国の資料に特養の位置づけがなされていなかったが、団体の
指摘を受け後付け）を掲げたかと思えば、介護離職ゼロのために必要な施設は造るとの首相の矢。これらの評論はテ
レビのコメンテーターにお任せし、現場最前線の施設新人ケアマネジャーとして、目の前の人に対して、様々な人の
知恵と経験と力を借りながら、場数を踏んで経験を重ねることではか身につかない力、効率化もロボットの力を借り
ても成しえることの出来ない分野に対して、人間力をもって支援が出来ればと考えております。